

1 学校経営の基本的な考え方

板橋区教育委員会が策定した「MIRAI SCHOOL いたばしー教育ビジョン2035ーアクションプラン2028」を踏まえ、本校の79年間の歴史と伝統、現在の生徒・保護者・地域の実態を踏まえ、教育目標『校訓：自律 挑戦・責任・尊重』を共通の目標に、互いに学び高めあう楽しく活気ある「魅力ある上二中」をつくっていく。そのために以下の5点を重点事項とする。

- (1) 生徒を中心に考え判断する
- (2) 将来を見据え学力を高める
- (3) 互いを尊重する心を育てる
- (4) 地域とともに学校づくりを進める
- (5) 服務事故を根絶する

2 中期的目標と方策

(1) 生徒を中心に考え判断する

- ・各学年で生徒一人一人の状況を常に正確に把握することに努め、生活指導部、生徒支援部を中心に課題に速やかに適切に対応できる教職員集団をつくる。
- ・生徒同士の関わりを重視し、学年を超えた関わりの中で、生徒が主体的に活躍できる場を数多く設け、生徒がリーダーシップを発揮し、やりがいと成長を実感できる学校生活をつくる。

(2) 将来を見据え学力を高める

- ・次期学習指導要領の論点整理を踏まえ、これからの社会を生き抜くために主体的で粘り強く自ら調整して学びを進める力（探究する力）を身に付けさせ、系統的に高めていく。
- ・教科書や資料集等の紙媒体を「読み解く力」と、Chromebook等のデジタルデータを「読み解く力」をInput→Think→Outputに繰り返し取り組ませることで相乗的に高めていく。

(3) 互いを尊重する心を育てる

- ・総合的な学習の時間を「探究の時間」とし、7年で基礎を身に付け、8・9年でゼミ形式を取り入れ探究する力を系統的に高め、これからの社会における様々な課題に立ち向かい、突破し、未来社会をつくる力を育む。
- ・道徳科で「考え、議論する道徳」の授業を実施し、お互いを尊重し、思いやりのある豊かな心と道徳的实践力を育てていく。
- ・生徒支援部を中心に、SU教室や不登校巡回教員を効果的に活用し、一人一人の生徒に応じた支援を組織的に実施し、支援の必要な生徒や問題行動等に速やかに対応できる体制をつくる。

(4) 地域とともに学校づくりを進める

- ・コミュニティスクール委員会等で学校の現状や課題を率直に伝え、学校と地域が目標を共有し、「上二テラス」を活用し、学校と地域が協働して「魅力ある上二中」をつくっていく。
- ・ホームページや学校だより等を活用し学校の情報発信力を高め、学校の取組や生徒の活動などを伝えるとともに、生徒が地域で活動する場を増やしていく。

(5) 服務の厳正を徹底する

- ・コンプライアンスを徹底し、教育公務員としての自覚を高め、服務事故の根絶を図る。
- ・教職員同士、生徒・保護者・地域で可能な限り情報を共有し、風通しのよい、意見を言いやすい環境をつくっていく。

3 令和8年度の達成目標と方策

(1) 生徒を中心に考え判断する

- ① 一人一人の生徒の状況を把握し、保護者と良好な関係を築き、適切な支援をしていく。
→授業、行事、部活動、生徒会活動等における生徒の活動状況を日々観察・把握し共有する。
- ② 生徒会活動や部活動等を通して生徒が主体的にリーダーシップを発揮できる場をつくる。
→生徒会総務、委員長、学級代表委員、実行委員、部長、教科リーダー等で自信を高める。

(2) 将来を見据え学力を高める

- ① 主体的に学習に取り組む基盤研究推進校として、生徒が自ら学びを進める授業を実現する。
→「授業スタンダード」を基本とし、「授業スタンダードS（探究的で自己調整型の学び）」に探究の時間と各教科の中で繰り返し取り組み、個別最適な学びを実現する。
- ② 教員の指導力を高める
→教員研修の柱を「探究学習の充実」とし、東京学芸大学森本康彦教授の指導を受け、8・9年生のゼミ形式の取組の円滑な導入と指導方法を研究することを通して指導力向上を図る。
- ③ 教科センター方式の校舎を生かした授業や学びを充実させる。
→教科教室、教科メディアスペースを活用し、教科リーダーの生徒と各教科担任が教科リーダー会を通して、これまで以上に生徒のアイデアに基づいた創意工夫した取組を具体化する。
- ④ 保護者とともに家庭学習の充実を図り、学習習慣を定着・向上を図る。
→学力向上専門員・ALT・学習ボランティア等により年間を通した放課後学習教室（スタスペ）を実施し、生徒が自ら学ぶ意欲を高め、学び方を身に付け家庭学習に取り組めるよう指導していく。

(3) 互いを尊重する心を育てる

- ① いじめ、差別や偏見を許さない
→教科・道徳・探究の時間・学級活動などを通して、世界的な視野をもたせ、多様性を重視し、違いを認め、互いを尊重できる生徒の育成を目指す。
- ② 道徳科を中心に生徒の道徳的実践力を高める。
→副担任も道徳の授業を行い、道徳の授業力を高め、生徒を多面的に評価していく。
- ③ 生徒一人一人に応じた支援を速やかに適切に行う。
→ステップアップ教室の拠点校として、支援の必要な生徒に対する小中一貫教育を推進する。2人のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを中心に相談・支援体制を充実させる。

(4) 地域とともに学校づくりを進める

- ① CS委員会・PTA・学校支援地域本部を中心に、地域とともに「魅力ある上二中」をつくる。
→部活動指導員（2人）、野球やバドミントンの地域クラブ化を機会に部活動の地域移行を進める。
- ② 「大きく向上 学びのエリア」で小中一貫教育を進める。
→「探究学習の充実」をテーマに大谷口小・向原小・上二小と9年間の一貫教育を進める。

(5) サービスの厳正を徹底する

- ① 危機管理体制を整備する。
→「報告・連絡・相談・記録」と「スピード・正確・支えあい」を基本に組織的に対応する。
風通しのよい職場をつくることで、体罰、わいせつ、ハラスメント等の未然防止に努める。
- ② コンプライアンスを徹底し、服務規律を守り、事故の未然防止に努める。
→働き方改革を進め、校務の合理化効率化を図り、ゆとりある勤務体制をつくることで、服務事故の根絶を図る。予算の適正執行と私費負担の軽減、未納の防止に努める。